

聖新報

Semanario de S. Paulo
Rua Pisan 11, 472
Caixa Postal, 35 SAURUP
Director & Redactor
ROGERO KOWYAMA
Anno Semestre 25\$000
Tremestre 15\$000
Mez 7\$500
Semana \$600

昭和

祝天長節

五年

天長節

皇室の祝日は菊である。天長節に菊の花が咲いて居る事は、私共日本國民にとつて、自然と一致した天長節の様な気がする。

それは私共が、明治天皇時代に生れ、明治天皇の天長節が、菊の期節の十一月三日であつたから、天長節には、よく菊の花を見た。

一つは斯うした幼少時代からの環境が、私共は菊の花と天長節と結びつける思想を持たせたのかも知れない。

菊は皇室の祝日と云ふ傳統的的印象があるは勿論だ。大正天皇の天長節は八月三十日、菊の花がなかつた。

それで私共には、甚だ畏れ入るが、淋しい氣をもたせられて居た。ブラジルでは昭和天皇に入つて、其御誕辰が、菊の花が四ヶ月末であらせらるゝ事になつた。

今日の御誕辰に、私共は皇室の御祝日たる菊の花をかざして万里異境の地から、遙かに故郷の空を仰ぎつゝ、壽ぶままつる事の出来たのは、自然と一致した悠久な天長節と云ふ氣がする。

君が代を唱ふるにも菊の花薫る野に、庭に、室に、大和民族がより合つて菊の花を見つめつゝ、唱ふ、誰れも感慨無量であらう日本國!!

一頃は東洋における、支那の一部島嶼に過ぎないと、世界の大多数民族から想はれて居た日本であつた。日本國!!

一頃は、藝伎の國日本!!と、世界遊野郎共の性をそつた國と知られて居た日本であつた。

又一頃は、支那と戦争して勝ち、獨立國となつた様に、莫逆つゝの味がある。明徳梅吉、ロシヤ包囲の柳行李見ない男だ、何んでも前め込めるが、出す時は中は趨き苦茶なのが多い、張りが西洋服でもてる。

と、自分でも知つて居る男だ。鍛上げた小刀だ。切味は美事だ。松下正彦、ブラジル羅漢の名を奉りたい。後藤武夫、詩情の重箱に、マメライダとケーヂオを入れた。後藤武夫、詩情の重箱に、マメライダとケーヂオを入れた。後藤武夫、詩情の重箱に、マメライダとケーヂオを入れた。

▲三浦繁、熊の膽でなく豚の膽だ。併し自分では熊の膽だと思つて居る男だ。▲八田一雄、牛の群を飼ふて、カンナを殺して二十年、凡人で凡人でない、凡人でなく、凡人である。

▲渡邊孝、瘦せ地に種かへさるゝ大木見たいな男だ。春が来ても夏が来ても、芽も葉も繁らない大木だ。▲矢野龍、金の入歯みたいな男だ。餘りビカ／＼過ぎるとキザが出てよくない。

▲間崎三三、阿部の責任見たに「大官人は如何云ふらん」出て居る男だ。海外男飛が崇つて居る男だ。▲川原政右衛門、あの男は、報が半分物を云つて居る男だ。▲奥田龍仁五郎、沖繩縣人で、あの男が、一般代表して居る男だ。

▲翁長助成、黙然として居れば、ふく／＼鳥の如く、喋つて居る時は、蛇蝎をくはれた雄子の如し。▲黒石清作、猫の頭に紙袋をさせた位の愛嬌はあらう。

▲富岡漸、水晶壺が黒水晶を堀り出して、白水晶でないかと、大河端でゴッ／＼洗つて居る男だ。……吾も武士の果てて居る男だ。▲長谷川武、十年ゴッ／＼としてサラリマン生活、全く新氣をなくした。がコンニヤクの中に軟骨をもつて居る様な男だ。

▲齊藤武夫、官僚の胡麻の纏てな男にしてしまつたは、才子が才を頼み過ぎたからだ。今じやタンゴスターの切れかゝつた五、十色光のランパ。あの館でも餘り光らぬ。

▲福川隆然、納まる処におさまつたで、道端の地蔵菩薩同様である。あれに赤い涎かけでもかけてあげたら。▲中仙太郎、クワタ殖民地にさく、イベの花、赤いイベでなく、黄ないイベの花でな感した。▲原口七郎、携帯用の折鶴見たいた。紙幣でも這入つて居る様な男だ。重要書類でも這入つて居るやうで、這入つて居ない物だ。

▲鈴木正雄、牝犬から「ワン」と呼びかけられたら、尻尾を股の間にさして逃げた野良犬。▲濱口光雄、何時も「アムレロ」があるんじゃないか知らぬ。それで云ふ事が、虫の性の様に想はれる。

人物月旦

如露鏡

人間を、十四字語の原稿用紙の、僅か四五行内に、評價しやうなんて、俺も大抵な仕事じゃ無いと思つたが、俺も、牛も、豚も、海老も、豆腐も鏡詰になつて居る世の中だ。何処かで代議士を鏡詰にした。其各々の名のレツテルを貼つて居る。乾度旨いものばかりじゃない。中には鏡詰のしかたが悪くて、レツテルの正味を白なしにして居る様なものも出て居る。後口が悪いと憤慨せずと讀んでもらふよ。

▲水野龍、隠元豆の鏡詰みたいな男だ。一粒づゝ噛めば、一粒づゝの味がある。▲明徳梅吉、ロシヤ包囲の柳行李見ない男だ、何んでも前め込めるが、出す時は中は趨き苦茶なのが多い、張りが西洋服でもてる。

▲安田良一、鏡の役には立たぬ。▲福川隆然、納まる処におさまつたで、道端の地蔵菩薩同様である。

奉祝

矢部洋服店

リンス市 矢部 清

奉祝

佐藤徳五郎

ノロエステ線アラサツタービル

奉祝

女子裁縫講習所

伊藤定五郎

奉祝

瀬ノ上商店

奉祝

出利葉羊三

海外興株式會社

伯國支店

奉祝

アニマラス農場

イグアベ植民地

代理部

フォード自動車

スタンダード石油

Parque Anhangabahu, 18
Caixa Postal, 3015

奉祝天長節



姫姫

御柳節より

倉本せい子

電話 二二、一九二二

祝天長節

高橋忠一

リンス市

三千万ポンド 成立す

聖市新聞は州公報として、聖州借款二千万ポンドが、英京及北米証券市場にて廿八日成立したと発表して居る。

幣原外相の議院説明

【東京廿五日電】幣原外相はロンドン海軍縮小の経過を議院で説明した。

幣原外相の海軍縮小報告と各紙の批評

【東京廿六日電】各有力紙は幣原外相の臨時議院に於てなしたロンドン海軍縮小報告は日本の國防安全の主張を離れて居る。ロンドン海軍縮小を不自然なるものにしてしまつたものであつたと海軍通の人々より其句調を引證して批難して居る。

皇統の御祭え

瑞雲たより日出版の國とわに榮行くすめらさの五色の糸の一すぢにすべ給ひぬる大君の大御心の畏しや

鐵道開通

【モスコイ廿八日電】露國スターリン氏の報によればトルキスタンとシベリヤ間連絡鐵道が廿七日より開通した由

若し伯邦人中から 祖國に代議士を送るとしたら?

ブラジル生れの吾々第二世或は三世なり、伯國代議士の一人位は、屹度出る事にするは勿論だが、



一畝四萬五千株の咖啡園

ブラジルナラセ! ナラバ 聖市ナラセ! ナラバ 聖市ナラセ! ナラバ 聖市ナラセ!

甲 伯國堂々たる、體格から押せば、藥研の大河内次夫さ、由なんか、立派なものだ、が、お婦人否、モダンガ、...

今日のお祭を祝ふなり。すめらぎの御祭へ祝ふなり。天長の佳節 郷愁



反響

▲天長節である、天皇の御誕生日である。それを國民第二世に知らせるには、毎年其第二世の誕生日を祝ふにやる事だ。天長節はそれから始まる。

祝天長節 大西鐵工所 西大 西大 西大 西大

奉祝 パール 京東 沖山 心平 宮坂 實郎

奉祝 青木 良助

天長節を祝し たてまつる 古賀 直藏

奉祝 太田 久次郎

祝天長節

祝天長節 笹田 正數

奉賀天長節 村上 繁人

奉賀天長節 安元 青太

祝天長節 上田 商店

瀬木 商店

祝天長節

氏原 彦馬

Compagnia de Ferras Norte do Paraná Caixa, 3234 - Sao Paulo

奉祝 古賀 政次



齊藤時計修繕所

上田 商店

紅茶の後

珈琲地帯も棉作地帯も郊外の農業者まで全作の外に甘い作物はないかと逐取限であさつて居る此の不景氣は色々の方面にて救調を興へてゐる。

熱帯病學の權威

松岡博士は台湾在勤時代に福州にハワイに多年の斯界の研究をされた權威者でことにアミイバ赤痢は博士論文の副文であつたことを思へば博士の此方面にける研究の深さを窺ふことが出来る。

リベロン分館

主任は副領事 此分館には副領事が駐在することになつて、在日日義領事館勤務の成瀬氏が副領事となつて赴任する、氏は二十五日ナントスに歐州から來看した。

聖堡新聞休刊

若月博士の發行する肥料新聞ナンバウ新聞は印刷所との話が纏らず休刊する事になつた、活字が日本から到着すれば亦店を開くと噂。

ワランゲ

「日本皇室の御紋章は、菊の御紋であります」 是れは當國邦人殖民地の或る小學校で、某先生が、生徒に説明した言葉でありました。

特色を出さうといふのならう手まめな技能と豪放な仕事に飼ひは出來るよ、牧畜とばちと荷が重過ぎる。



見邦人經營のファファア畑

濱口領事は領事館新設、バム立者を出して、つらるゝ勿れ、ナンツ領事館もやつと開議は通過したが豫算案で二年越しに引かつて居る。昇格でもこゝなものは、百や二百位の集團家を、御役人の方が在留民より入數が多くなりませぬかと云ひたくなる。

天長節を 賀したてまつる 武田悟

天長節を 賀したてまつる 横山初太郎



邦人畑の働外勞者數の

奉祝 内山吉藏

奉祝 日伯 伯日 祝 社マネシ 祝 助金神溝

奉祝 天長節 大原兄弟商會

佳節を 祝しまつる 佐藤次郎 祝天長節 佐藤二郎 祝天長節 宮平市助 祝天長節 加藤憲 奉祝 山中齒科醫

奉祝 黑島伊平 祝 藤井正人 祝天長節 旅館澤尾磯七 祝天長節 齊藤等

サンパウロスケチ

花村生

収容所

永い永い航海を了へて船がサントスに着いた時は、不安と焦燥とが一時にこみあげて来るとぼんやりとひきつられて行く様な気が阜頭から移民列車に乗込んだ。

アルトゲセラーの案検道の進んで留まり休んで進む汽車の内でも之れから開けて行く自分の運命を考へては、いよいよ暗い氣持になり勝ちの心を引き立て、来た。山を降りた汽車があのカッポイラの中を走ると、牛や馬が線路に沿つて散在して居るのを見て想像のブラジらしい氣分がやつと湧いて来た。

彼は弱い寂しさを押へかたくして日本を二ヶ月前に出た日を胸の中に呼び起した、もう来る所まで来たのだ。彼は生きて行く外仕方がないぢやないか！

都會の場末らしい驛を通過したときに誰云ふとなくサンパウロで聞へた。汽車は速力をゆるめて收容所の構内に滑り込んだ。

高い赤煉瓦の塀、冷たい暗い威しのする建物、全体の調子が何となく陰鬱で暗い。保りの人達の顔までが惨忍に見える。氣の悪い彼は急々これだと腹をさめた。

船に揺られて居るやうな氣分がまだぬけぬ。嗚呼もすして夕食の鐘が鳴つてぞろ／＼と大きな食堂に流れこんだ。

話して聞いて居つたフェジョン

に油めし、マカコンの獻立、一さじ食へば甘ければブラジル料理の中は暗い電燈がついてラジオの音が流れて来た。

眠るとはなしにうとう／＼と明かした一夜の夢は淡い。配膳されて行く耕地の事情がたゞ譯も二月の永い航海の其の間古い友達のやうに語り合つた人達と明日は南と北に別れて、見知らぬ人の中に交はつて通ぜぬ言葉に馴れぬ仕事でこれからは自分達の運命を闘つて行くのかと思へば暗い氣もする、然し日本ではもうこの俺はどうすることも出来なかつたのだ、同じ客方をするにも勝手氣儘に行く所まで行くまでぢやないか、

何に何とかなる日が来れば俺にも芽のふくときが来るだろう。もう日本に居つたときやうに、つまらぬ氣苦勞や變な用務なんかするものか、俺はもう素養貧だ、之れ以上に何かがあるか腕一本とすね一本遣る所までやる迄は、恐いものはない。

彼はや、とすねは寂しい、弱い心を引立て、自分と自分の心に勇氣をつけた。

誰かが一度は厄介になつてブラジルの最初の夜を明したあの收容所を私は今五年振りに訪ねた入れては吐き出した幾萬人の夢の痕を辿つて私は五年昔のその夜のカーにもたれて居る。新移民當時の自分の姿が鏡の中に浮き出して来る様だ。

祝天長節

精米

マキナ

農田源行 福島捨吉

奉祝天長節

社団法人 サントス日本人會

奉祝

中村鐵工場

中村仁太郎

ノロエステ線アラサツパー町

永田忠雄旅館

奉祝 賀數輝俊

リンズ市

奉祝 大庵喜八

ノロエステ線アラサツパー町

醫師

祝天長節

城間嘉助

リンズ市

祝天長節

本田寫眞館

本田安喜

奉祝 精米精珈

廣木 合同商會

淺野

リンズ市オラポピラク五 電話三

奉祝 祝天長節

パールキチセ 吉瀬軍平 土谷庄之助

祝

祝天長節

中須彌吉 別府しげ子

リンズ市

祝

奉祝

カーザベルメーリヤ 澁谷商會

リンズ市